

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 広島県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	福山市内海中学校 1年生 10名（男子 6名・女子 4名） 2年生 8名（男子 3名・女子 5名） 3年生 16名（男子 6名・女子 10名） 教職員 11名（校長1名・教頭1名・教諭7名・介助員1名・スクールカウンセラー1名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 保健体育・道徳 ）
4 目 標 （ねらい）	・オリンピック教室を通して、スポーツへの関わりを考えることができる。 ・オリンピックの生き方に触れ、自分の生き方を見つめることができる。
5 取組内容	事前学習として、1学期に実施したオリンピック教室（JOC）を、「挑戦」・「協力」・「感謝」のキーワードで振り返り、廣田遥先生のプロフィールを読み合わせた。 事後学習として、生徒感想文の交流を行った。 私は、廣田先生の、人よりも3倍の努力を続けたことに驚きました。私は、気持ちではやらないといけないと分かっているのに、実際に行動に移すことができないので、オリンピックに出場する人は、やっぱりすごいなと思いました。行動に移すことができたのは、「絶対に周りの人を越えてやる」という強い自分の意志と諦めない心を持ち続けていたからだと思います。」 ですが、私は正直、「先生のお話は、諦めず成功した人の実例」だなと思いました。諦めず成功した人は少数で、諦めず失敗した人が多数だと考えました。だから、私は先生に、「諦める心も大切なのでは？」と質問しました。すると、先生は、「諦めずに自分が納得するまでやって、その先に諦めるという選択肢がある。」と、おっしゃいました。 私は、志望校の壁が高く、少し諦めそうになっていたのに、先生のおっしゃったことが、すごく頭に残りました。確かに、私は、志望校を諦めることに、自分で納得してないなと思いました。

	残り2ヶ月と少しを、自分のできる最大限のことをして、合格でも不合格でも、「自分は納得するまで全力だった」と言えるように、諦めず最終日まで走っていきます。
6 主な成果	「諦めない心の持ち方」をテーマとした道徳の時間の内容を、進路実現や部活動に重ね、自分自身や仲間の今後の活動につなげることができた。 また、体育の長縄跳びの活動では、仲間と協力して記録を伸ばすために工夫したり声かけをしたりして、挑戦することや諦めないことの大切さを実感することができた。 アンケート調査によると、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する理解・関心が高まりましたか」「オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意義や価値等に対する理解・関心が高まりましたか」の項目で、肯定的評価100%だった。 
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	小規模校の特徴を生かして、全校生徒で受講し、学年を越えた縦割りグループ（体育大会のチーム）で活動した。 また、グループ内で学年ごとの小集団をつくり、競争させる場面を設定した。（3年生が落ち着いた様子で、下学年に勝利することができ、よいお手本となった。）
8 主な課題等	オリンピック・パラリンピックの基礎知識を身に付けたうえで、オリンピック・パラリンピアンのプロフィールや、競技種目についての学習を積み上げる必要がある。
9 来年度以降の実施予定	次年度は、パラリンピアンによる教室を希望し、東京パラリンピックに対する理解・関心を高めたい。